

都市再生整備計画 事後評価シート
飯坂地区

平成23年3月

福島県福島市

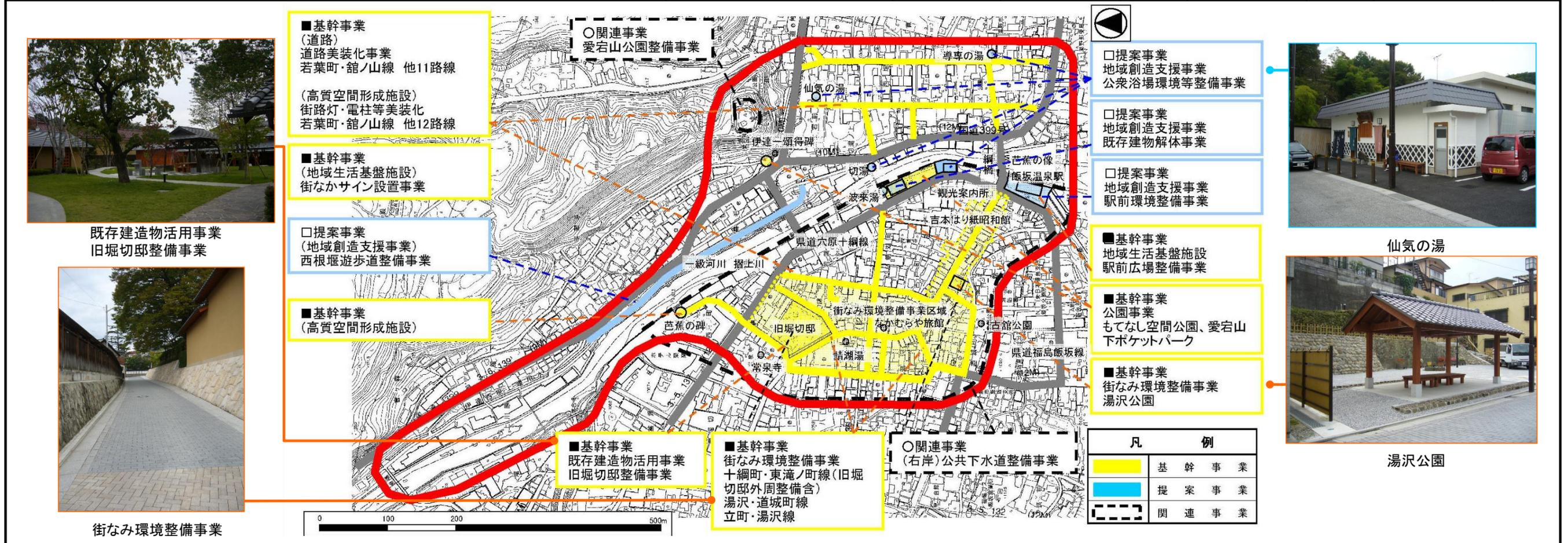
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	福島市		地区名	飯坂地区		面積	33.0 ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1,747.9百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路:若葉町・館ノ山線、湯町・西滝ノ町線、東滝ノ町・湯沢線、古館・中赤館線、湯沢・湯町線、東滝ノ町・湯町線、切湯ノ上・西畑線、湯ノ上2号線、湯ノ上・愛宕前線 高質空間形成施設:若葉町・館ノ山線他12路線、芭蕉碑ポケットパーク整備 既存建造物活用事業:旧堀切邸 街なみ環境整備事業:十綱町・東滝ノ町線、立町・湯沢線、湯沢・道城町線、湯沢公園									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	高質空間形成施設:愛宕山下ポケットパーク整備、街なかサイン整備			公園事業、地域生活基盤施設へ移行			影響なし			
	新たに追加した事業		基幹事業	道路:若錦町線、横町・東堀切線、湯ノ上1号線 公園:もてなし空間公園、愛宕山下ポケットパーク整備 地域生活基盤施設:街なかサイン整備、駅前広場整備(飯坂温泉駅)			道路:道路美装化路線を追加しネットワークを強化する 公園:交流拠点の形成を図る 地域創造支援事業:駅前広場の利便性の向上			【道路】歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く 【公園】および【地域生活基盤施設】歩行者交通量、イベント開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く			
提案事業			地域創造支援事業:西根堰遊歩道整備事業			一体的なまちづくりを推進するため関連事業から移行			影響は軽微であるため、目標も指標も据え置く。				
交付期間の変更		当初変更	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	旧堀切邸の交流者数	人/月	1,000	H17	1,700	H22	モニタリング	評価値	○	あり	旧堀切邸の整備だけでなく、周辺の道路等の整備、観光拠点や広場等の整備を総合的に実施したことで、地区全体の魅力が向上し、観光客の増加とあいまって交流者数が増加した。	
	指標2	歩行者交通量	人/日	2,462	H17	2,700	H22		2,127	×	あり	本指標は、駅とその他2地点の歩行者数であるが、駅での歩行者が大幅に減少したため、歩行者交通量は減少した。これは高速道路の通行料が千円になったことにより、通常、駅を利用していた観光客が、車利用へシフトしたことの影響が大きいと思われる。	H23.7
	指標3	イベントの開催数	回/年	5	H17	10	H22		8	△	あり	旧堀切邸を中心とした地区全体の整備により地区住民等が観光・集客に対して意欲的になったことにより、イベント企画運営が活発となったが、わずかに目標には至らなかった。しかし、従前値より開催数は増加しており、1年以内に達成は見込めると考える。	H24.3
	指標4										あり		
	指標5										あり		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	歩行者交通量(鯖湖湯)	人/月	665	H17				898			鯖湖湯前の旧堀切邸の整備や道路、広場・公園等を整備し、地区の良好な景観が形成され、地区の観光地としての魅力が高まったため、歩行者交通量が増加した。	H23.7
	その他の数値指標2	イベント参加者数	人/年	34,829	H17				41,367			旧堀切邸を中心とした地区全体の整備により地区住民等が観光・集客に対して意欲的になったことにより、イベント企画運営が活発となってイベント参加者数が増加した。	H24.3
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	地域住民から構成されているまちづくり団体と本地区のまち歩きをした際に実施したアンケート結果より、以前に比べ「温泉情緒を感じる街並み形成がされている」、「飯坂の魅力が形成されている」と約6割の方が評価している。また、道路の美装化についても半数以上が評価しており、本整備により交流拡大に期待できるという意見を頂いた。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	飯坂町周辺地域づくり協議会、飯坂町湯沢周辺地区街なみ環境整備協議会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域住民・まちづくり団体と連携しながら、必要に応じて実施していく。					
持続的なまちづくり体制の構築	旧堀切邸利活用委員会による会議		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域住民・まちづくり団体と連携しながら、必要に応じて実施していく。						

様式2-2 地区の概要

飯坂地区(福島県福島市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標名	単位	従前値	年度	目標値	年度	従前値	年度
大目標: 県都福島市の奥座敷として、温泉や豊かな自然環境、坂が多く変化に富んだ地形、そして地区の文化・歴史、あたたかいコミュニティなど、飯坂地区の特性・魅力を最大限に活かし、地域全体で築きあげる「もてなしとにぎわい」のまち。 目標1: 温泉町の魅力向上による交流人口の拡大 目標2: 地域とともに築きあげるもてなしの空間形成	旧堀切邸の交流者数	単位: 人/月	1,000	H17	1,700	H23	16,515	H22
	歩行者交通量	単位: 人/日	2,462	H17	2,700	H23	2,127	H22
	イベントの開催数	単位: 回/年	5	H17	10	H23	8	H22
	歩行者交通量(鯖湖湯)	単位: 人/日	665	H17	—	—	898	H22
	イベント参加者数	単位: 人/年	34,829	H17	—	—	41,367	H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の交流を促進するための拠点の形成と、飯坂地区の“顔”となる拠点の形成が課題であったが、観光拠点として、旧堀切邸整備やもてなし空間公園整備、公衆浴場環境整備等により旧堀切邸の交流者数の増加や鯖湖湯前の歩行者交通量の増加等、交流促進を図ることが出来た。 ・歩行者の安全性の向上とまち歩きを楽しめるネットワークの形成が課題であったが、道路美化、ポケットパークの整備、街なかサイン整備等により安心して歩くことの出来る道路整備やまち歩きを楽しめるネットワークの形成を図ることが出来た。 ・良好な街並み景観と河川景観の形成が課題であったが、廃業旅館の解体や良好な景観形成を図るため民有地における建築物の意匠・形態等も一体的に整備し、良好な街並み形成を図ることができた。ただし、廃業旅館は整備区域内に多数残っているため、廃業旅館の利活用の促進を図る。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・車利用により、初めて飯坂地区を訪れる観光客への対応。 ・整備した施設・空間の利活用についての地元組織の立ち上げ。 ・本地区はふくしま観光圏としても位置づけられおり、他地区との交流および連携の強化と今後も地域住民やまちづくり団体と連携を継続していく。 ・廃業した温泉旅館のリニューアルによる住宅や地域の交流の場等の整備の推進を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	若葉町・館ノ山線	36.0	L=231m	29.2	L=226m	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
道路	湯町・西滝ノ町線	30.0	L=177m	48.4	L=192m	事業精査により増額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
道路	東滝ノ町・湯沢線	24.0	L=221m	26.6	L=219m	事業精査により増加	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
道路	古館・中赤館線	14.0	L=99m	12.1	L=99m	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
道路	湯沢・湯町線	7.0	L=50m	5.1	L=47m	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
道路	東滝ノ町・湯町線	6.0	L=114m	23.7	L=161m	事業精査により増額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
道路	切湯ノ上・西畑線	9.0	L=67m	6.0	L=66m	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
道路	湯ノ上2号線	15.0	L=104m	15.0	L=104m	—	—	●	
道路	湯ノ上・愛宕前線	48.0	L=341m	61.0	L=335m	事業精査により増額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
道路	若錦町線	—	—	4.8	L=46m	道路美装化路線を追加しネットワークを強化する	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
道路	横町・東堀切線	—	—	37.2	L=256m	道路美装化路線を追加しネットワークを強化する	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
道路	湯ノ上1号線	—	—	8.5	L=41m	道路美装化路線を追加しネットワークを強化する	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
公園	もてなし空間公園	—	—	140.0	A=約1,042㎡	公園事業として追加し、交流拠点の形成を図る	歩行者交通量、イベント開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
公園	愛宕山下ポケットパーク	—	—	21.2	A=約120㎡ (H21～H22)	愛宕山下ポケットパークを公園事業に移行し、都市公園として整備する	歩行者交通量、イベント開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	街なかサイン整備	—	—	33.2	32基	高質空間形成施設から移行	旧堀切邸の交流者数、歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
地域生活基盤施設	駅前広場整備(飯坂温泉駅)	—	—	20.0	A=約890㎡	駅前広場の利便性の向上を図るため事業を追加	歩行者交通量、イベントの開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
高質空間形成施設	若葉町・館ノ山線 他12路線	161	—	84.0	—	当初9路線から4路線を追加	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
高質空間形成施設	芭蕉碑ポケットパーク整備 愛宕山下ポケットパーク整備	40	2箇所(約50㎡)	7.5	1箇所(約140㎡)	愛宕山下ポケットパーク整備を公園事業に移行。	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
高質空間形成施設	街なかサイン整備	8	30基	—	—	地域生活基盤施設へ移行。	影響なし	—	—
高次都市施設									
既存建造物活用事業	旧堀切邸	614	A=約4,084㎡	553.8	A=約4,084㎡	詳細設計の成果により事業費減額	旧堀切邸の交流者数、歩行者交通量、イベントの開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	十綱町・東滝ノ町線	156	A=約1,680㎡	83.0	A=約1,680㎡	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
街なみ環境整備事業	立町・湯沢線	26	A=約100㎡	16.5	A=約140㎡	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
街なみ環境整備事業	湯沢・道城町線	26	A=約100㎡	9.0	A=約140㎡	事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
街なみ環境整備事業	湯沢公園	44	A=約220㎡	22.0	A=約332㎡	事業精査により減額、区域の拡張により整備面積変更	歩行者交通量、イベント開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	駅前環境整備事業	68	A=約2,048㎡	47.4	A=約456㎡	事業精査により増額	歩行者交通量、イベント開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
	公衆浴場環境等整備事業	205	4棟	202.2	4棟	事業精査により増額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
	既存建物解体事業	100	2棟	89.2	3棟	波来湯(公衆浴場)追加し、事業精査により減額	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
	西根堰遊歩道整備事業	-	-	11.3	L=約400m	一体的なまちづくりを推進するため 関連事業から移行	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
事業活用調査	事業効果分析調査	-	-	0.4	-	事後評価の補完業務とし歩行者交通量調査を追加	歩行者交通量の指標に関係するが、数値目標は据え置く	●	
まちづくり 活動推進事業	まちづくり活動事業	5	-	2.3	-	飯坂地区のまちづくり団体を支援 団体として追加、事業費精査により 増額	旧堀切邸の交流者数、歩行者交通量、イベントの開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
	景観形成推進事業	78	-	126.3	-	修景整備を希望する件数が増加 し、事業費増加	旧堀切邸の交流者数、歩行者交通量、イベントの開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●
	もてなし空間創出事業	5	-	1.0	-	事業実績等を踏まえ減額	旧堀切邸の交流者数、歩行者交通量、イベントの開催数の指標に関係するが、数値目標は据え置く		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業							
事業	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
		当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
遊歩道整備事業	西根堰	48	-	H18~H22	-	都市再生整備計画の提案事業へ移行	
公共下水道整備事業	十綱町他地内	500	500	H14~H22	H14~H22	一部区間を残し、対象区域内の整備完了	
公園整備事業	愛宕山公園	40	40	H20~H21	H20~H21	完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)	目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度			あり	なし	
指標1	旧堀切邸の交流者数	人/月 時期:平成22年7月~9月の3ヶ月 実施主体:都市計画課 計測手法:3ヶ月間の来場者数の平均を交流者数の評価値(確定)とする。	—	—	1,000	H17	1,700	H22	モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定 ● 見込み	16,515	事後評価 ○	
指標2	歩行者交通量	人/日 時期:平成22年7月 実施主体:都市計画課 計測手法:整備区域内の主要3地点(飯坂温泉駅前、鯖湖湯前、新十綱橋前)で、休日の歩行者数を計測し評価値(見込み)とする。	—	—	2,462	H17	2,700	H22	モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定 ● 見込み ●	2,127	事後評価 ×	●
指標3	イベントの開催数	回/年 時期:平成22年8月 実施主体:都市計画課 計測手法:地区内で行われた一年間のイベント開催数を、地元飯坂温泉観光協会等へ聞き取り評価値(見込み)とする。	—	—	5	H17	10	H22	モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定 ● 見込み ●	8	事後評価 △	●
指標4									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定 見込み		事後評価	
指標5									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定 見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	旧堀切邸を新たに整備したことにより観光地としての魅力が高まり来場者数が大幅に増加し、目標値が達成されたため○とした。	
指標2	旧堀切邸をはじめ、地区全体の整備を実施したが、目標値には至らなかったため×とした。	鯖湖湯前は、駅利用および自動車利用の観光者も通行するため、交通手段に関わらず来場者歩行者交通量を計測することが出来るが、他2地点は自動車利用者は通過してしまう。従って、交通手段の変化に左右される恐れがある。
指標3	目標値はわずかに達成していないが、旧堀切邸を中心とした地区全体の整備により地区住民等が観光・集客に対して意欲的になったことにより、イベント企画運営が活発となっているため、目標達成度を△とした。また、評価値が目標値に近く、イベント開催数も増加していることより、1年以内の達成は可能とした。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
				基準 年度		基準 年度						
その他の数値指標1	歩行者交通量(鯖湖湯)	人/日	時期:平成22年7月 実施主体:都市計画課 計測手法:鯖湖湯前で、休日の歩行者数を計測し評価値(見込み)とする。			665	H17	モニタリング			道路美装化の整備や旧堀切邸の整備等、地区の各種事業効果による鯖湖湯前の歩行者交通量の増加により、小目標1の「交流人口の拡大」を説明する。	指標2を補完する
								事後評価	確定	見込み ●		
その他の数値指標2	イベント参加者数	人/年	時期:平成22年8月 実施主体:都市計画課 計測手法:地元飯坂温泉観光協会等に地区内で行われた平成17年度から平成21年度までのイベント参加者を数聞き取りを、過去5カ年データより平成22年度のイベント参加者数を推計し、その値を評価値(見込み)とする。			34,829	H17	モニタリング			もてなし空間公園整備や旧堀切邸の整備等、地区の各種整備効果によるイベント参加者数の増加により、小目標1の「交流人口の拡大」を説明する。	指標3を補完する
								事後評価	確定	見込み ●		
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

平成21年6月に、飯坂町湯沢周辺区域街なみ環境整備協議会および飯坂地区周辺地域づくり協議会が行政と共に飯坂再点検まち歩きをした際に実施したアンケート結果より、以前に比べ「温泉情緒を感じる街並み形成がされている」、「飯坂の魅力が形成されている」と約6割の方が評価している。また、道路の美装化についても半数以上が評価しており、本整備により交流拡大に期待できるという意見を頂いた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
飯坂町周辺地域づくり協議会	予定どおり実施した ●	実施時期：平成18～22年度 実施頻度：年1回（協議会は4委員会から構成されており、合同会議の回数） 実施結果：第1委員会は修景整備、道路美装化、ポケットパークの検討。第2委員会は河川整備、拠点整備、公衆浴場の検討。第3委員会はもてなし空間の創出、まちづくり活動の実践、交通対策。景観整備推進委員会はまちづくり協定の締結、まちづくり協定の認定申請、修景整備の手続き。各委員会の検討が施設の整備や活用に反映されている。	今後も地域住民・まちづくり団体と連携しながら、必要に応じて実施していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
飯坂町湯沢周辺地区街なみ環境整備協議会	予定どおり実施した ●	（平成13年に設立し、計画以前から協議会を実施） 実施時期：平成18年～平成22年度（計画期間のみ記載） 実施頻度：総会年1回（協議会の他、企画広報部会、事業計画策定委員会、修景整備推進委員会があり、合同会議の回数） 実施結果：町内会の説明、修景整備の検討、事業方針の決定とその内容の広報活動（街なみニュースの発行）等を実施し、街並み環境整備に大きく寄与している。	今後も地域住民・まちづくり団体と連携しながら、必要に応じて実施していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
旧堀切邸利活用委員会による会議	予定どおり実施した ●	旧堀切邸利活用委員会では、展示と利活用に分けた作業部会の開催により、邸内展示資料の観光客へのアピールの検討、年中行事の企画や利用の決まりを検討した。	委員会：4回（H20.7、H20.8、H21.6、H21.9） 作業部会：4回（H21.7、H21.7、H21.8、H21.9） 委員は、町内会、商工会、旅館協同組合、婦人会等計35名から構成されている。	今後も地域住民・まちづくり団体と連携しながら、必要に応じて実施していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	都市計画課、交通政策課、市街地整備課、公園緑地課、観光課、河川課、下水道建設課、水道局、商業労政課、児童福祉課、生涯学習課、建築住宅課	平成22年10月22日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標の種別	指標1	指標3	その他指標1	その他指標2	
		指標名	旧堀切邸の交流者数	イベントの開催数	歩行者交通量(鯖湖湯)	イベント参加者数	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(道路)若葉町・館ノ山線	◎	旧堀切邸の整備だけでなく、周辺の道路等の整備、観光拠点や広場等の整備を総合的に実施したことで、地区全体の魅力が向上し、観光客の増加とあいまって交流者数が増加した。	○	鯖湖湯前の旧堀切邸の整備や道路、広場・公園等を整備し、地区の良好な景観が形成され、地区の観光地としての魅力が高まったため、歩行者交通量が増加した。	旧堀切邸を中心とした地区全体の整備により、地区住民等が観光・集客に対して意欲的になったことにより、イベント企画運営が活発となった。	
	(道路)湯町・西滝ノ町線	◎		○			
	(道路)東滝ノ町・湯沢線	◎		○			
	(道路)古館・中赤館線	○		○			
	(道路)湯沢・湯町線	○		○			
	(道路)東滝ノ町・湯町線	◎		○			
	(道路)切湯ノ上・西畑線	○		○			
	(道路)湯ノ上2号線	○		○			
	(道路)湯ノ上・愛宕前線	○		○			
	(道路)若錦町線	○		○			
	(道路)横町・東堀切線	◎		○			
	(道路)湯ノ上1号線	○		○			
	(公園)もてなし空間公園	○		○			
	(公園)愛宕山下ポケットパーク	○		○			
	(地域生活基盤施設)街なかサイン	◎		○			
	(地域生活基盤施設)駅前広場整備	○		○			
	(地域生活基盤施設)芭蕉碑ポケットパーク	○		○			
	(高質空間形成施設)若葉町・館ノ山線 他12路線	○		○			
	(既存建造物活用事業)旧堀切邸	◎		○			
	(街なみ環境整備事業)十綱町・東滝ノ町線	◎		○			
(街なみ環境整備事業)湯沢・道城町線	○	○					
(街なみ環境整備事業)立町・湯沢線	○	○					
(街なみ環境整備事業)湯沢公園	○	○					
提案事業	(事業活用調査)事業効果分析調査	-	-	-	-		
	(地域創造支援事業)公衆浴場環境等整備事業	○	○	○	○		
	(地域創造支援事業)既存建物解体事業	○	○	○	○		
	(地域創造支援事業)駅前環境整備事業	○	○	○	○		
	(地域創造支援事業)西根堰遊歩道整備事業	○	○	○	○		
	(まちづくり活動推進事業)景観形成推進事業	○	○	○	○		
	(まちづくり活動推進事業)もてなし空間創出事業	○	○	○	○		
	(まちづくり活動推進事業)まちづくり活動事業	◎	○	◎	◎		
関連事業	遊歩道整備事業	○	○	○	○		
	公共下水道整備事業	○	○	○	○		
	公園整備事業	○	○	○	○		

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	現時点では新規オープン効果もあるので、今後は交流者数が減少しないようイベント等の企画運営で集客努力を継続する	イベントの企画運営が小規模でも継続できるよう、市として支援する	観光地区としての魅力を高めるために地区住民と協力してまちづくりを継続する	今後も継続的なイベント運営と共に、イベントの周知の徹底を図る
-------	--	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2											
指標名		歩行者交通量											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(道路)若葉町・館ノ山線	△	本指標は、駅とその他2地点の歩行者数であるが、駅での歩行者が大幅に減少したため、歩行者交通量は減少した。これは高速道路の通行料が千円になったことにより、通常、駅を利用していた観光客が、車利用へシフトしたことの影響が大きいと思われる。	III									
	(道路)湯町・西滝ノ町線	△											
	(道路)東滝ノ町・湯沢線	△											
	(道路)古館・中赤館線	△											
	(道路)湯沢・湯町線	△											
	(道路)東滝ノ町・湯町線	△											
	(道路)切湯ノ上・西畑線	△											
	(道路)湯ノ上2号線	△											
	(道路)湯ノ上・愛宕前線	△											
	(道路)若錦町線	△											
	(道路)横町・東堀切線	△											
	(道路)湯ノ上1号線	△											
	(公園)もてなし空間公園	△											
	(公園)愛宕山下ポケットパーク	△											
	(地域生活基盤施設)街なかサイン	△											
	(地域生活基盤施設)駅前広場整備	△											
	(地域生活基盤施設)芭蕉碑ポケットパーク	△											
	(高質空間形成施設)若葉町・館ノ山線 他12路線	△											
	(既存建造物活用事業)旧堀切邸	△											
	(街なみ環境整備事業)十綱町・東滝ノ町線	△											
(街なみ環境整備事業)湯沢・道城町線	△												
(街なみ環境整備事業)立町・湯沢線	△												
(街なみ環境整備事業)湯沢公園	△												
提案事業	(事業活用調査)事業効果分析調査	-											
	(地域創造支援事業)公衆浴場環境等整備事業	△											
	(地域創造支援事業)既存建物解体事業	△											
	(地域創造支援事業)駅前環境整備事業	△											
	(地域創造支援事業)西根堰遊歩道整備事業	△											
	(まちづくり活動推進事業)景観形成推進事業	△											
	(まちづくり活動推進事業)もてなし空間創出事業	△											
	(まちづくり活動推進事業)まちづくり活動事業	△											
関連事業	遊歩道整備事業	△											
	公共下水道整備事業	△											
	公園整備事業	△											

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	観光地区としての魅力を高めるために地区住民と協力してまちづくりを継続する			
------------------	--------------------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	都市計画課、交通政策課、市街地整備課、公園緑地課、観光課、河川課、下水道建設課、水道局、商業労政課、児童福祉課、生涯学習課、建築住宅課	平成22年10月22日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域住民の交流を促進するための拠点の形成と、地区の顔となる拠点の形成	観光拠点として、旧堀切邸整備やもてなし空間公園整備、公衆浴場環境整備等により旧堀切邸の交流者数の増加や鯖湖湯前の歩行者交通量の増加等、交流促進を図ることが出来た。	なし	なし
歩行者の安全性の向上とまち歩きを楽しめるネットワークの形成	狭隘道路の解消、ポケットパークの整備、街なかサイン整備等により安心して歩くことの出来る道路整備やまち歩きを楽しめるネットワークの形成を図ることが出来た。	なし	
良好な街並み景観と河川景観の形成	廃業旅館の解体や良好な景観形成を図るため民有地における建築物の意匠・形態等も一体的に整備し、良好な街並み形成を図ることができた。	廃業旅館は整備区域内に多数残っているため、廃業旅館の利活用の促進を図る。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	整備した施設の活用	車利用により、初めて飯坂地区を訪れる観光客への対応。 整備した施設・空間の利活用についての地元組織の立ち上げ。	公共駐車場等案内板の充実。 観光イベントの増加・PR、観光人材の育成。
	観光圏内の交流・連携の強化	本地区はふくしま観光圏としても位置づけられおり、他地区との交流および連携を強化する。	観光人材の育成や情報発信、観光圏のモデルコースの作成およびPR等。
	良好な街並みの形成	本地区の街並み形成は地域住民やまちづくり団体と連携しながら実施しており、今後も本連携を継続していく。	地域住民やまちづくり団体との連携強化。

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	廃業旅館の利活用の促進	廃業した温泉旅館のリニューアルによる住宅や地域の交流の場等の整備を進める。	既存建物の利活用推進事業。

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	旧堀切邸の交流者数	人/月	1,000	H17	1,700	H22	確定 ●	16,515	○	あり			
指標2	歩行者交通量	人/日	2,462	H17	2,700	H22	確定 ●	2,127	×	あり ●	平成23年7月	従前値と同様に、交通量調査を実施し、確定値を求める。	実施主体：都市計画課
指標3	イベントの開催数	回/年	5	H17	10	H22	確定 ●	8	△	あり ●	平成24年3月	従前値と同様に地元観光協会等への聞き取り調査を実施し、確定値を求める。	実施主体：都市計画課
指標4				H		H	確定			あり			
指標5				H		H	確定			あり			
その他の数値指標1	歩行者交通量(鯖湖湯)	人/日	665	H17			確定 ●	898			平成23年7月	従前値と同様に、鯖湖湯前で、休日の歩行者数を計測し確定値を求める。	実施主体：都市計画課
その他の数値指標2	イベント参加者数	人/年	34,829	H17			確定 ●	41,367			平成24年3月	従前値と同様に、地区内で行われた一年間のイベント開催数を、地元飯坂温泉観光協会等へ聞き取り確定値を求める。	実施主体：都市計画課
その他の数値指標3				H			確定						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標2「歩行者交通量」は達成できなかったが、未達成要因を分析し、その他の数値指標1「歩行者交通量(鯖湖湯)」により、本事業の効果を適切に把握することができた。	事業途中段階でのモニタリングの実施により、外的な要因が指標に大きく影響していないかチェックすることが必要。
	うまくいかなかった点	地区内交通量は高速道路の通行料が千円になったことにより、駅利用の観光客が、車利用へシフトしたことにより目標を達成することが出来なかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	旧堀切邸整備は、当初予想していた来場者数を大幅に越え、当地区の観光拠点整備に大きく寄与することができた。	他地区において、事業構成と指標間の整合性に配慮し計画する。
	うまくいかなかった点	なし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	本地区は住民参加による協議会および委員会が早期に設立され、住民と一体となった整備が出来たことにより、地域内交流および地域外交流が活発となった。	他地区のまちづくりにおいても、住民参加による意識意向反映や住民活力によるまちづくり活動を続けていく。
	うまくいかなかった点	なし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	なし	なし
	うまくいかなかった点	なし	
その他	うまくいった点	なし	なし
	うまくいかなかった点	なし	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、他の地区において、都市再生整備計画の活用予定
本市において福島市中心市街地地区(計画期間平成23～26年度)を作成予定である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年11月11日～11月24日	平成22年11月11日～11月24日	担当課へ郵便、FAX、Eメールなど	都市計画課 (都市再生整備計画担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	市政だよりにて、ホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載 実施	平成22年11月1日	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	窓口閲覧	平成22年11月11日～11月24日	平成22年11月11日～11月24日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	二瓶 由美子 桜の聖母短期大学准教授	平成22年12月20日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)	福島市社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	福島市都市計画審議会、福島市景観審議会
その他の委員	齋藤 貞雄 町内会連合会副会長 鈴木 深雪 福島県建築士会				

審議事項※1	委員会の意見	
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	特になし。
	実施過程の評価	特になし。
	効果発現要因の整理	特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし。
	フォローアップ	特になし。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。